

## 彦根市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

### ■目指す姿

地域と学校が連携・協働し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるため、幅広い地域住民等の参画により、一人ひとりが当事者意識をもって「地域学校協働活動」を推進し、「地域の子は地域で守り育てる」機運を高める。また、地域住民等の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながりを強化し、地域の活性化を図る。

### ■本年度の具体的活動

#### ・実行委員会の開催（年2回）

第1回 5月20日（金）書面会議、事業資料配布 6月21日（火）書面結果の配布・交流

第2回 1月27日（金）各本部の実践交流・次年度に向けた協議

#### ・学校訪問（10～11月） 市内15小・中学校

各支援地域協議会(委託先)およびコミュニティ・スクール導入校、次年度導入予定校を訪問し、地域学校協働本部事業、地域未来塾事業、コミュニティ・スクール推進事業の推進状況把握と導入に向けた課題を共有し、助言を行った。



【手引き概要版】

### ■本年度の成果

- ・学校運営協議会と地域学校協働本部のつながりを意識し、一体的な推進への理解が深まった。地域の連携・協働のもと、「地域とともにある学校づくり」を推進することができた。
- ・コミュニティ・スクールの理解や導入促進に向けて、教頭会研修会の実施、コミュニティ・スクールの手引きの改訂やパワーポイント資料や動画作成を行い、活用を呼び掛けることで、令和6年度での市内全小中学校導入に向けての機運が高まった。
- ・社会教育委員の会議において、社会総がかりで子どもを育てるために、家庭教育の充実や企業との連携、コミュニティ・スクール導入に向けての議論を行った。

### ■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

- ・地域未来塾の学習支援員をはじめ、事業を支える地域ボランティアが高齢化、固定化する傾向があるため、支援のネットワーク化を図り、人材を安定的に確保していくことが重要である。

### ■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

彦根市では以前から同様の役割を担う地域コーディネーターを配置していることから、地域学校協働活動推進員は委嘱していないが、委嘱について検討している。

### ■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

来年度、新たに4校で学校運営協議会を設置し、本市の学校運営協議会は12協議会(13校)となる予定である。これまでの成果と課題をもとに導入を加速していきたい。

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

- ・マスク着用、手指消毒、健康チェック、喚起を確実に実施している。
- ・地域未来塾では、基本的な感染防止対策とともに、個別指導による密接を避けるための座席配置や子ども達と学習支援員との間の衝立設置など、各校の状況に応じた工夫をして実施に努めている。
- ・コロナ禍で一旦中断した活動を、コロナ禍前の従来の活動に戻していくことが難しい活動がある。

## 近江八幡市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

### ■目指す姿

今年度、市内5つの就学前施設、全12小学校、全4中学校が学校運営協議会設置校園（コミュニティ・スクール）として、地域と学校の協働活動の構築に重点を置き、学校・家庭・地域が連携し、同じ目標を持って子どもに向き合っている。また、市内全ての公立幼稚園、こども園、小学校、中学校に地域学校協働活動推進員を配置し、地域住民の力を学校教育に活用するため、「地域学校協働本部」を設置し、支援体制の強化を進めている。

### ■本年度の具体的活動

5月～8月	各校園の第1回学校運営協議会への出席及び説明
4月28日（木）	学校を核とした地域力強化プラン事業説明会
7月22日（金）	第1回地域学校協働活動推進員交流会
10月27日（木）	第1回コミュニティ・スクール研修会
11月24日（木）	第2回コミュニティ・スクール研修会
12月23日（金）	第2回地域学校協働活動推進員交流会
2月22日（水）	第3回地域学校協働活動推進員交流会



【 地域学校協働活動  
推進員交流会の様子 】

### ■本年度の成果

- ・地域学校協働活動推進員の交流会を学期末に計3回実施した。  
学区ごとに活動内容やボランティア協力者に関する情報交換を行った。また、推進員を務める上で困っていることなどのご意見をいただき、今後の協働活動推進の参考にすることができた。
- ・各校園については、コロナ禍が続く中、子どもの貴重な経験・体験を充実させようと地域と学校が連携し検討、実施することができた。

### ■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

- ・コミュニティ・スクール研修会を実施し、管理職や地域学校協働活動推進員の理解を深めることができた。しかし、現場の教職員への周知が足りず、あまり認知されていない現状がある。  
今後、教職員用リーフレットとCS通信を作成し、周知を図る。
- ・学校運営協議会の熟議が進むよう、学校と地域の理解と協力を得ながら、伴走支援を行う。

### ■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

- ・社会教育法および、本市が制定した「地域学校協働活動推進員設置要綱」に基づき、市内23校園に設置している地域学校協働本部にそれぞれ1名の地域学校協働活動推進員を委嘱している。

### ■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

- ・令和3年度より、市内5つの就学前施設、12の公立小学校、4つの公立中学校の合計21校園に学校運営協議会を設置した。各校園のコミュニティ・スクールの取組の充実を図るため、関係者向け研修会と地域学校協働活動推進員の交流会を行い、学び合う機会を持った。

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

- ・感染対策を講じながら、これまで中止されてきた活動が行えるようになった。広い会場をとったり、人数を分散して行ったりするなど、子どもたちの体験を充実できるよう実施を前向きに検討し、取り組むことができた。

# 草津市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

## ■目指す姿

草津市では平成10年度から、「地域協働合校推進事業」に取り組んでおり、学校・家庭・地域がそれぞれの教育機能を十分に発揮し、互いに協働することにより、子どもと大人がともに学び合う「地域学習社会」づくりを目指している。

特に今年度からは、地域課題解決型の学習に向け、子どもたちが身近な課題に主体的にかかわることで、地域社会の一員としての意識と行動力を身につけられるよう、より地域に密着した活動を進めている。



【 情報交換会 】

## ■本年度の具体的活動

### (1) 運営委員会

第1回（4月7日）地域協働合校推進事業の趣旨、学校運営協議会との連携推進について説明

第2回（2月9日）一年の振り返り、実績報告書について説明

### (2) 地域コーディネーター

業務説明会（4月15日）地域コーディネーターの機能と業務について

情報交換会（7月22日）社会に開かれた教育課程と地域協働合校について、1学期の情報交換

総括会議（1月31日）一年の振り返り、来年度に向けての課題共有

### (3) 研修

「コミュニティ・スクールくさつ兼地域協働合校全体研修会」（10月25日）

対象：学校運営協議会委員、地域連携担当者（各校）、市立小中学校PTA会長、

地域コーディネーター、まちづくり協議会長（各地域）、市関係課職員

内容：草津市の取組概要について説明後、湖南省立石部南小学校 地域学校協働活動推進員 山元尚美氏による実践発表。その後、「コミュニティ・スクールと地域協働合校の一体的な推進をめざして」をテーマにしてパネルディスカッションを実施。老上小学校 地域コーディネーター 山本 忍氏と常盤小学校 地域コーディネーター 稲垣 保善氏と山元 尚美氏をパネリストにお迎えし、日頃の取組や活動していく上で大切にしていることなどお話いただいた。会場の参加者からも意見が出る場面も見られ、活気のある研修会となった。

### (4) 広報活動

地域協働合校推進事業に関する通信『協働通心』を発行

広報先：地域まちづくりセンターや市内小中学校、地域コーディネーターへ配布

草津市HP掲載

## ■本年度の成果

地域課題解決型の活動を目指し、地域協働合校での学びを従来のように学校内で完結するのではなく、学びを地域に発信して共有できるよう、各校が工夫やアイデアを生かして取組を進めた。また、情報交換会や全体研修会において地域コーディネーターの発表の場を設けることにより、優良事例の共有を図った。地域コーディネーターの連携による新しい事業の実現、同一中学校区の地域コーディネーター同士の自主的な会議の開催等、ネットワークのつながりによる新しい取組が展開できた。

## ■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

学校と地域が目標やビジョンを共有しながら有機的に連携し、社会全体で子どもを育てていく体制を盤石にすることが重要であり、活動への協力者、後継者の育成や発掘が大きな課題である。

## ■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

平成31年4月から地域学校協働活動推進員として20名を委嘱している。

## ■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

平成30年4月から市内全小中学校（計20校）に学校運営協議会を導入している。

## ■コロナ禍における対応・工夫および課題

回数を分けての実施やリモートによる発表等、各校で工夫を図ってもらった。

## 栗東市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

### ■目指す姿

学校・家庭・地域の協働と互いの支援で「自己肯定感が高く、笑顔にあふれた子どもを育むまち」を基盤に、緊密な連携をはかりながら、『心豊かにたくましく生きる人の育成』を目標とした。

### ■本年度の具体的活動

地域学校協働本部事業を1中学校区で、放課後子ども教室事業を6小学校区で実施したが、会議等は新型コロナウイルス感染症の影響により、書面決議等に変更し実施した。放課後子ども教室は新型コロナの影響により当初の計画よりも少ない回数での実施となった。

### ■本年度の成果

新型コロナウイルス感染症の影響により活動に様々な制約等あったが、活動を通じて、子どもの居場所づくり、地域の人との交流等の目的の達成はできた。

### ■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

活動スタッフの減少・高齢化等の問題があり、いかに確保するかが長い間の検案事項になっている。

### ■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

委嘱なし

### ■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

2023年度より随時導入予定

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

手指消毒及び検温の実施、活動中・活動前後の密対策をとりながらの活動を行ったが、特に放課後子ども教室における子ども達の活動中の密対策は仲間づくりの観点から、難しいこともあった。

# 甲賀市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

## ■目指す姿

未来を担う子どもたちの成長を支え、「社会に開かれた教育活動」を実現するためには、地域と学校が連携・協働し、社会総がかりで教育を行う体制を構築することが必要である。

そのため、子どもたちの教育活動等を一層充実していく観点から、幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動「地域学校協働活動」を推進する。

また、活動を通じて、子どもたちの社会性・自主性・創造性等の豊かな人間性を涵養するとともに、地域社会全体の教育力の向上を図り、地域の活性化や子どもが安心して暮らせる環境づくりを推進する。

## ■本年度の具体的活動

### ・地域学校協働活動連絡会の開催

- |     |       |     |                |
|-----|-------|-----|----------------|
| 第1回 | 4月6日  | (水) | 事業に関する資料配布及び説明 |
| 第2回 | 8月31日 | (水) | 各地域の実践報告       |
| 第3回 | 2月予定  |     | 次年度に向けた協議      |

### ・情報交換会の開催

地域学校協働活動推進員及び地域学校協働本部や学校運営協議会の関係者が参加し、各地域の状況把握や懸案事項に関する情報交換を行った。

## ■本年度の成果

- ・市内の小学校4校に地域学校協働本部を新たに設置し、幅広い地域住民等の参画により、地域の実情に応じた取組ができた。また、子どもたちは、学習活動等を通じ地域の方々と交流し、一緒に取り組むことで、意欲がわき、活動そのものが活性化された。
- ・学校運営協議会で熟議された内容を踏まえた地域学校協働活動（学習支援、環境支援）の取組ができた。
- ・社会教育委員の会議において、各地域学校協働活動推進員から現況を報告していただき、情報交換を行った。このことにより課題を集約することができ、次年度に向けてのあり方を考える機会となった。

## ■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

持続可能な取組とするため、地域と学校の「連携・協働」が重要であり、継続的・安定的な実施をするため、人材の確保と推進体制の構築が必要である。

## ■地域学校協働活動推進委員の委嘱状況

令和4年度から教育委員会委嘱（7名）

## ■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

現在、学校運営協議会は小学校4校に設置している。

今後、コミュニティ・スクール設立に向けた校内の組織体制の話し合い等を進め、学校の管理職を対象とした研修会を実施する。また、地域の方にご理解をいただくために必要に応じて事業の説明を行うなど、コミュニティ・スクールの推進を図っていく。

## ■コロナ禍における対応・工夫および課題

コロナ禍でPTAや地域の活動が減っているが、徐々に再開の兆しもあり、コロナ対策を十分に行ったうえで、できる限り活動を中止しないよう事業の継続を進めていく。



【 社会教育委員の会議 】

## 野洲市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

### ■目指す姿

地域、保護者、PTA等の参画の下、地域全体で子どもの学びや成長を支え、学校を核とした地域づくりを目指して、地域と学校が相互に連携・協働する体制を作っている。

また、コミュニティ・スクールの設置推進に向けて、「ひとづくり」と「まちづくり」をコンセプトに掲げ、次世代のまちの担い手づくりに重点を置き、「意見を言うだけの組織」から「一緒に行動できる組織」へ、及び「地域の活性化」から地域に生きる「子ども育て」を目指している。

### ■本年度の具体的活動

年6回、地域学校協働活動推進員連絡協議会を開催した。各校の取組の発表や高島市、湖南市の小中学校へ視察研修に行き、参考にしながら、自校の地域学校協働活動の実践に生かした。そのうち、2回は学校長も参加し、実践発表や交流・協議し、自校の今後の取り組みに生かす具体的な方法を検討する時間を設けた。

### ■本年度の成果

各学校の地域と学校が協働して、子どもたちの学びを支える活動を紹介し、交流することで、地域学校協働活動の新たな取組へとつながる学校もあった。また、他市への研修で地域学校協働活動の取組を参考にし、自校の地域や学校での実践活動に生かすことができた。また、令和5年度からのコミュニティ・スクール設置と地域学校協働活動の一体的推進を行うため、教職員と地域の方の研修会において、自校の強みや課題を生かした取り組みを出し合い、未来志向の話し合いができた。



【 各学校の取組発表会 】

### ■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

各学校の既存の応援団の仕組みを生かしたり、新たに企業連携を進めていたりそれぞれの地域や学校の特徴を活かした取り組みが進んできているが、どう広げ、継続的に協働していくか、今後検討していく必要がある。



【 視察研修会 】

### ■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

各校1名ずつ配置し、時期については、学校と地域学校協働活動推進員の状況に合わせて、5月、7月に委嘱状を交付した。

### ■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

令和5年度より市内小中学校に導入を予定している。令和6年度より市内幼稚園、こども園に導入予定である。令和4年度は各校に準備委員会を立ち上げ、協議を行った。野洲市としても伴走支援を行い、校内研修会で説明したり全体会議を開いたりして導入促進に努めた。

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

予定していた取り組みがコロナ感染症の広がりの影響で中止になった活動も多かった。

## 湖南省における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 □放課後子ども教室 ■土曜日の教育支援

### ■目指す姿

本市では、「楽しくて力のつく湖南省教育」を標榜し、「子どもたちの育つ力を信じ、夢と志を育て、『生きる力の根っこ』を太くする」をスローガンに掲げ、学校教育に取り組んでいる。「生きる力の根っこ」となる「自尊感情」は、「学びの保障」、「仲間づくり」、「ふるさと意識の醸成」の取組の三本柱により育てている。本市は、平成19年度の岩根小学校に始まり、昨年度には全ての小中学校がコミュニティ・スクールとなった。市を挙げて、児童生徒の「生きる力の根っこ」を太くするために、地域と一体となって子どもたちを育む「地域と協働する学校づくり」の機運が高まっている。

### ■本年度の具体的活動

○市内地域コーディネーター、事業コーディネーター等交流会 年2回

第1回 4月19日(火) ・湖南省教育方針、「地域とともにある湖南省ビジョン」の周知

- ・地域コーディネーター委嘱状授与
- ・地域学校協働活動推進事業等の進め方について
- ・コーディネーターに期待すること 等

第2回 各中学校区において開催

石部中校区 12月1日(木) 甲西北中校区 11月29日(火)

甲西中校区 11月30日(水) 日枝中校区 12月5日(月)

- ・取組状況・情報交換、ボランティアの募集工夫、今年度の成果と課題と次年度事業構想意見交流

○地域学校協働活動推進事業等成果報告会(兼：運営委員会) 令和5年2月17日(金)

1) 功労者感謝状贈呈 2) 実践発表：甲西北中の取組

3) 研修：「地域と学校の連携・協働で湖南省の未来を拓く」講師：谷口茂雄 氏(前湖南省教育長)

### ■本年度の成果

- ・管理職を交え、地域学校協働活動推進員の連絡会を開くことで、成果と課題を明確にし、共有することができ、次年度の推進の方向性も確認できた。このことにより各中学校区内での連携の意識が高まった。
- ・今年度もコロナ禍の中にあつての活動であったが、感染防止対策を講じた上で、どのようにしたら子どもたちとともに活動ができるか試行錯誤しながら地域住民の参加や支援を得て、工夫ある取組が多く見られた。

### ■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

- ・地域学校協働本部や学校運営協議会の創設時から中核となって活動してきていただいた方が高齢とされているため、今後委員の世代交代が求められる。持続可能な事業継続には一部の方に負担が偏らないような人的な広がりや継承、また各地域学校協働本部の活動資金面での経済的自立が必須であり、地域まちづくり協議会、地元企業等との連携・協働を一層進めていく必要がある。

### ■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

- ・4月に、29名の地域学校協働活動推進員を委嘱している。

### ■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

- ・市内全13小中学校に学校運営協議会を設置済み。この内、2小学校1中学校では地域の特性を生かし中学校区学校運営協議会を設置している。あとは各校設置である。また、多くの学校運営協議会では委員に地域学校協働活動推進員を含んでいる。

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

- ・感染防止対策意識の向上により、会議時間の短縮や参加人数の厳選など、より合理的な在り方を模索することにもつながった。コロナ禍後にも通じるものとした。
- ・コロナ禍にあつては、さらなる学校と地域の相互理解や強固な連携が求められる。

## 高島市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

### ■目指す姿

地域の住民が地域学校協働活動を通し「地域の子どもを育む一員」としての当事者意識を持つことで、子どもへの関心や地域の教育力を高め、地域・子ども・学校の間をより強いつながりへと発展させ、世代を超えた地域コミュニティの形成をめざす。

### ■本年度の具体的活動

#### ○地域学校協働活動推進員協議会（定例会）の開催

協議会では、担当地域の推進員から本部活動の報告や課題などについて意見交換を行った。

#### ○学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進

各校の学校運営協議会に、地域学校協働推進員が参加し、子どもたちを支える地域学校協働活動を通じて感じたことやどのような活動に地域の方が参画できるか意見交換をした。



【CS・地域学校協働活動フォーラム】

#### ○コミュニティ・スクール・地域学校協働活動フォーラムの開催

地域学校協働活動推進員と学校管理職を対象に「コミュニティ・スクール・地域学校協働活動フォーラム」を開催し、講師に文部科学省地域学習推進課地域学校協働活動推進室の宮崎雅史氏を招き、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進にかかる先進事例について研修を行った。

### ■本年度の成果

地域学校協働活動推進員協議会では、各本部の活動状況や課題について、情報共有を図るとともにその解決に向けて意見交換を行った。特に、収束が見えないコロナ禍における地域学校協働活動において地域の方に参画してもらうための周知方法などの各地域の取り組みについて意見交換を行うことにより、円滑な地域学校協働活動につなげることができた。また、学校運営協議会で熟議の取り組みが広がっていく中、今年度は一部の学校で児童生徒の参画が見られるなど、多様な意見を踏まえて学校の課題解決に向けた情報共有を行った。

### ■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

子どもたちの学びや成長を支える地域学校協働活動を広げるため、より多くの人に参画してもらえよう周知に取り組んでいくとともに、コロナ禍でも安心して活動に参画いただける工夫について、引き続き取り組んでいく。また、今後も学校と地域の方が共に熟議を重ね、目的や課題、活動内容などについて情報共有を図ることで活動の広がりにつなげていく。

### ■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

中学校区ごとに地域学校協働活動推進員を委嘱し、8名を配置している。

### ■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

小中学校の19校全てに学校運営協議会を設置している。

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

グラウンドなどの環境整備や登下校時の見守りなど、子どもと触れ合う機会の少ない活動を中心にを行い、九九道場などの学習支援は、アクリル板設置やマスク着用、手指消毒等、感染予防対策を引き続き取り組んでいく。



## 東近江市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 ■放課後子ども教室 ■土曜日の教育支援

### ■目指す姿

市内全小中学校に地域学校協働本部を設置し、幅広い地域住民の参画により、地域と学校が連携・協働しながら、地域全体で子どもたちの心豊かな成長を支え、地域を創生する持続可能な活動を推進していく。

### ■本年度の具体的活動

- ・本部長及び地域学校協働活動推進員合同会議の開催（4月・2月）
- ・東近江市地域学校協働活動推進に向けた運営委員会の開催（5月・2月）
- ・東近江市地域学校協働活動推進員連絡会の開催  
（小学校：6月・10月／中学校：7月・11月／小中合同：3月）  
（1）各本部における取組の報告、情報交換、質疑応答  
（2）県研修会等の報告
- ・県教育委員会主催研修会への参加

### ■本年度の成果

- ・地域学校協働活動推進員連絡会では、校種毎に連絡会を実施して横のつながりを重視した。また、中学校区毎の推進員連絡会の開催を推進員に要請して、中学校区で連携できる体制作りについての呼びかけを行った。
- ・本部長と地域学校協働活動推進員との連携を深めるために合同会議を開催した。
- ・コミュニティ・スクール導入推進のため、実施校を対象とした先進校視察を実施し、今後の熟議に向けた研修機会とした。また市内の学校運営協議会委員の交流会を開催した。
- ・放課後子ども教室では、長期休業期間を中心に7教室実施した。
- ・ボランティア会議等で活用いただくために、各本部の活動をまとめた東近江市地域学校協働本部実践事例リーフレットを作成した。



【合同連絡会：中学校区での顔合わせ】

### ■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

- ・市街地や山間部等、各地域の特色を生かし、持続可能な活動を支援し推進していく。
- ・地域ボランティア等の人材確保が必要である。
- ・学校と地域学校協働活動推進員との無理のない連携体制を構築していく。

### ■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

- ・平成30年度から教育委員会委嘱（令和4年度29名）

### ■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

- ・令和3年度、市内2小学校に導入
- ・令和4年度、市内2小学校に導入（合計4小学校）
- ・令和5年度から新たに、市内1小学校1中学校にて導入予定

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

- ・新型コロナウイルス感染症対策を各本部にて実施し、できる範囲での活動が実施されている。

# 米原市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

## ■目指す姿

本市では、学校・園と家庭・地域が、地域の子どもを中心に置き、願う子ども像を共有しながら、それぞれが子ども支援の当事者として、縦横かつ双方向につながるための仕組みづくりを進めている。

縦のつながりとは、学校・園と地域の連携である。地域の人的・物的資源の活用や社会教育との連携により、豊かな体験活動の実現やコミュニケーション能力の向上を目指していく。地域学校協働活動もその仕組みの一つとして、保護者や地域の人々の様々な力を学校の教育活動の中に積極的に取り入れていきたいと考えている。

## ■本年度の具体的活動

### (1) 学校運営協議会委員研修会

本年度は感染症対策を行ったうえで、委員対象の研修会を実施した。山東小学校の事例発表ならびにCSアドバイザー北辺禎雄先生、県立大学上田洋平先生の講義を実施した。

### (2) 教育フォーラムの開催

中学校区	日 時	内 容
柏原中学校区	11月30日	・はびろ学習ラリー
大東中学校区	11月30日	・鈴木孝氏（日本ペットトーク普及協会）講演
伊吹山中学校区	中 止	・学区内のコロナの感染拡大のため
米原中学校区	11月30日	・収穫感謝祭（焼き芋パーティー）
河南中学校区	11月9日	・各校からのプレゼン発表、宇治原ひとみ氏講演
双葉中学校区	11月19日	・勅使河原郁恵氏講演会

## ■本年度の成果

○市内すべての小中学校（9小学校、6中学校）および市内の各園が参画し、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、各校区で実情に応じた協働活動を実施した。

○すべての学校に学校運営協議会を設置し、地域学校協働活動と連携した活動を進めることができた。

## ■課題と今後の協働活動の推進に向けて

○学校運営協議会制度の拡充を進め、学校と地域が互いにパートナーとして双方向に連携・協働する関係の更なる構築を目指す。

## ■地域学校協働活動推進員の委嘱状況…令和2年度より委嘱を実施。令和4年度の委嘱は21名。



【北国協往還ふるさとウォーク  
（伊吹山学区）】

## ■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

- ・平成30年度 中学校3校をモデル校として新規に導入（伊吹山中、米原中、河南中）
- ・令和元年度 小学校7校、中学校1校を追加（山東小、大原小、伊吹小、春照小、米原小、河南小、息長小、柏原中）
- ・令和2年度 小学校2校、中学校2校を追加（柏原小、坂田小、大東中、双葉中） ※市内全小中学校に設置完了

## ■コロナ禍における対応・工夫および課題

○教育フォーラムは新型コロナウイルス感染症の影響で、今年度は多くの中学校区で中止となったが、その中でも書面決済などの方法で、地域連携や保幼小中連携を進めるなどの工夫は行っている。

## 日野町における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

### ■目指す姿

「ふるさとを愛し、ふるさとを支える子どもたちの育成」をテーマに、地域に誇りを持ち、地域が大好きな日野っ子の育成をめざして、地域と学校が連携・協働して学校生活を支援する。

「日野を学び、日野で学び、日野から学ぶ」を合言葉に、地域学習を充実させ、地域と連携し、子どもたちが夢と志をもち、共に育ち、共に生き、ふるさと日野に愛着と誇りをもてる子どもたちの育成を目指している。

### ■本年度の具体的活動

小学校では6年目、中学校では5年目を迎えることとなった。本町では、令和2年度末に学校運営協議会規則を定め、令和4～5年度をめどにすべての小中学校をコミュニティ・スクールへ移行するための準備期間として本年度を位置づけ、協働活動の意義の再確認と活動の充実を図った。

### ■本年度の成果

今年度、これまでの地域学校協働活動の取組を基盤に2校でコミュニティ・スクールを立ち上げ学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進を図りながら取組がスタートした。今後、立ち上げを計画している学校・地域・関係者を含めた「日野町コミュニティ・スクール合同研修会」を開催し、町全体で各域の課題と方向性を確認できた。

また、放課後子ども教室・地域未来塾についても、学習の遅れを心配する児童・生徒や保護者の支えとなり、少ない人数で個別に指導を受けられる喜びを感じたり、自分の力の伸びを実感したりする子どもが増えた。なかでも、日野中学校の地域未来塾については、日野町少年センターの協力のもと、開催数を増やし放課後学習の場を設けることができた。

### ■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

今後のコミュニティ・スクールへの移行に伴い、CS及び地域学校協働活動について夏の教職員全体研修で教職員としてどうかかわっていくか、何ができるかを協議し、一定理解が進んだ。

これからも継続して保護者・地域・教職員への啓発を行うとともに、町内のすべての学校に学校運営協議会が立ち上がった後も、情報交換・実践交流する機会をつくり、それぞれの地域・学校が発展していく仕組みを考える必要がある。



【 CS合同研修会 】

### ■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

各学校区の地域学校協働活動推進員（ふるさと絆支援員）6名、青少年育成町民会議会長、日野町少年センター所長、学識経験者、小中学校長会代表、町PTA連絡協議会代表、各地区公民館代表、各小中学校教頭6名で日野町地域協働活動推進協議会を組織し、各学校区の協働本部が家庭や地域との連携を図っている。

### ■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

令和4年度から2校が学校運営協議会を導入し、残りの学校も令和5年度に学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールへ移行する計画である。

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

県生涯学習課のオンライン研修会に各校単位で管理職やコーディネーター・学校運営協議会委員が共に参加することで意見交換を行い、今後の自校の取組の参考とすることができた。また、コミュニティ・スクールへの移行に伴う手順や課題等を明らかにし、具体的な実践に結び付けることができた。

## 竜王町における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 □放課後子ども教室 ■土曜日の教育支援

### ■目指す姿

本町では、公民館に地域学校協働本部の事務局を置いていることで、優れた技術を持つ地域の方の情報を把握することができ、公民館を拠点として、地域総ぐるみで学校（園）支援体制を整えることを通じて地域や家庭の教育力向上をめざしている。

また、地域学校協働本部と学校運営協議会が連携を密にし、今までの一方的な「支援活動」から、「連携・協働活動」になることを目指し、地域と学校が子どもたちを支援することや、まちづくりに資すること等「双方向」の関係性を築いていきたい。竜王キッズクラブでは、様々な体験を通じて、学年の異なる子どもたちが地域の方と交流を深め、何事にも挑戦し、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につけることを目指す。

### ■本年度の具体的活動

地域学校協働活動：地域学校協働活動推進員会議（定例会）の開催、  
広報紙の発行、ボランティアの募集

土曜日の教育支援：各クラブでの活動（原則土曜日開催）

### ■本年度の成果

地域学校協働活動：地域コミュニケーションが密になるとともに、  
子どもの成長を見ることができた。

土曜日の教育支援：普段の学校生活では交われない異学校の児童が、  
クラブ活動を通じて、一緒に学び体験をすることで交流を深めることができた。



【 絵本読み聞かせ 】

### ■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

地域学校協働活動：学校の支援依頼に対しボランティアを派遣しているが、自ら支援チームを組織し支援できる体制の構築までは至っていない。リーダーの育成が必要不可欠。リーダー人材の発掘と育成が必要。

また、ボランティア登録者数は年々増加しているが、支援内容により支援に協力できる人に偏りがある。

学校支援依頼が届いてから派遣するまでの期間が短く調整に苦慮している。

土曜日の教育支援：講師の高齢化により継続するには、講師の発掘・継続が必要。

クラブ活動内容のマンネリ化が進んでいる。

### ■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

地域学校協働活動推進員を5名委嘱している。

### ■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

- ・町内の1園・2小学校・1中学校にコミュニティスクールを設置済。今後も地域学校協働本部と学校運営協議会が連携を密にし、支援活動を更に発展させ、コーディネート機能を充実しつつ、地域住民の協力を得ながら活動の幅をより広げ、継続的な地域学校協働活動を実施し、発展させていきたい。



【 書道クラブ活動 】

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

地域学校協働活動：学校支援を行う際のコロナウイルス感染症対策の徹底（マスク、消毒、検温等）。

土曜日の教育支援：健康チェックカードを配付し検温の実施や体調管理を行っている。

## 愛荘町における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

### ■目指す姿

愛荘町は令和3年度からすべての校園が学校園運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとして地域と一体となって子どもたちを育む「地域と協働・連携する学校園づくり」を進めている。

地域と学校園が連携・協働して子どもを育てることにより、愛荘教育のさらなる充実と地域住民にとっては自らの学びの成果を活かす場の拡充を図り、この活動を通して子どもと地域住民のつながり・絆が強まり地域教育力が向上していくことを目指している。

### ■本年度の具体的活動

#### (1) 実行委員会

- ・第1回（7月28日）地域学校協働活動と地域ボランティアの拡充について
- ・第2回（1月27日）学校園運営協議会・地域学校協働活動推進員の取組充実  
講演会「コミュニティ・スクールを活性化する地域・家庭・学校園の連携・協働による取組」  
講師：北辺禎雄氏（滋賀県CSアドバイザー）

#### (2) 推進部会

- ・6回開催（4月、6月、8月、10月、12月、2月）：自校園の地域学校協働活動の取組交流
- ・研修会：10月20日 講師：高木和久氏（文科省CSマイスター）  
テーマ「学校と地域をつなぐ地域学校協働活動推進員の役割」

#### (3) 学校園運営協議会委員研修会

- ・研修日：5月11日  
講師：高木和久氏（文科省CSマイスター）  
演題：「コミュニティ・スクールを創る」

#### (4) 広報活動

- ・愛荘町ホームページに「学校園応援ボランティア募集」を掲載（12月）
- ・町PTA連協と連携して、町ホームページに「『こども110番のおうち』募集中」を掲載



【学校園運営協議会委員研修会】

### ■本年度の成果

- 隔月開催の推進部会では、各校園の様々な取組について資料により交流する時間を重視してきた。部会の中で得た情報をもとに、新たな地域ボランティアによる学習場面の広がりや地域へのお便りの発行に至ったという部員の声が届いている。
- コロナ禍で様々な角度から感染防止対策を講じて、地域住民の方々と子どもとの関わる場を試行する実践が多くあった。特に、地域学校協働活動推進員の地域内でのつながり力を活かして、子どもに関わる応援の輪が広がっている。

### ■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

- 学校園運営協議会での熟議を広げ、地域の教育力を校園に活かす機会や子どもが地域行事に参加・活躍する場を創造できることを期待している。
- 愛荘の子どもを育てる中核になる家庭教育への支援も大事にしていく。様々な状況下にある保護者を支えることや保護者同士が組織・集団の中で関わり合い、高め合う機会となる情報提供に努め、子どもとのコミュニケーションを図るボランティア活動への勧誘もしていきたい。

### ■地域学校協働活動推進員の委嘱状況および学校園運営協議会の導入状況

- ・町内2幼稚園、4小学校、2中学校すべての校園に地域学校協働活動推進員を委嘱している。また、すべての校園において学校園運営協議会を設置している。

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

- ・新型コロナウイルス感染症対策を各校園で実施し、可能な限りの活動が実施されている。

## 甲良町における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

### ■目指す姿

本町では、「知・徳・体」の調和のとれた心豊かでたくましい子どもの育成のために、学校・家庭・地域が参画し、協働と互いの支援で子どもの学びや成長を支え、学校を核とした地域づくりを目指している。特に、「確かな学力」「仲間づくり」「地域の子育て活動の活性化」をテーマに、子どもと大人が共に考えを出し合い、体験、活動を共にすることで、人と人、人と地域がつながり、地域を知り、共に育っていこうとする人づくり、まちづくりを目指している。



【 学校運営協議会会議 】

### ■本年度の具体的活動

本町では、学校運営協議会設置規則を令和3年に施行し、全ての小中学校をコミュニティ・スクールへ移行するための準備期間として本年度を位置づけ、地域学校協働活動の意義の再確認し、小学校1校を先行実施させ、その取組の成果と課題を検討した。



【 飼育小屋解体作業 】

### ■本年度の成果

昨年度立ち上げた小学校1校のコミュニティ・スクールにおいて、感染症対策を講じながら、学校と地域の連携・協働のもと、「地域とともにある学校づくり」を推進することができた。町内の学校のより一層のコミュニティ・スクール推進に向け、校園長会にて、進捗状況の報告や意見交流を行った。

### ■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

それぞれの地域や学校の実情や特性、地域と学校の連携・協働の推進状況や活動の発展段階をふまえて、地域学校協働活動が一層推進できるように、積極的な取組を目指す。そのために、それぞれの学校の教育課程の実施にあたり、地域資源の活用や放課後等を活用した社会教育との連携を図り、地域と共有・連携しながら実現させていきたい。

### ■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

学校に設置している地域学校協働本部に地域学校協働活動推進委員を1名配置し、委嘱している。今後は、社会教育法に基づき、地域学校協働活動推進委員設置要綱等の法整備および予算の確保等を進めていく。

### ■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

町内1校に学校運営協議会を設置済み。今後順次設置予定。

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

新型コロナウイルス感染症対策を各本部にて実施し、できる範囲での活動を実施

## 多賀町における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

### ■目指す姿

多賀町は、「まちづくりは、ひとづくり」との基本認識に立ち「子育て教育熱心なまち」の具現化を進めている。一人ひとりの子どもの個性を伸ばし、健やかに、たくましく、自分の将来に希望と夢を持てる子どもが育つまち、子育て世帯を地域ぐるみで応援するまちづくりに向けた施策を充実させている。大人は、子どもとの活動を通して知識や経験を子どもたちに伝え、子どもは、地域の歴史や伝統を学び次世代に受け継ぐことができる、互いの信頼を軸とした地域学校協働活動を目指している。

### ■本年度の具体的活動

#### (1) 登録者に対するボランティア研修会の開催

初の試みとして、「図書の修繕研修会」を実施した。初級・基本編の内容を研修し、3つの園で多くの方が破れた絵本を定期的に修繕した。初級・基本編に続く研修を希望する声が多く好評だった。

#### (2) 読み聞かせ・安全見守り・屋外での環境整備活動の充実

中学校特別支援学級での花作り・野菜作りでは、ボランティアの指導により、生徒たちも生き生きと活動できた。また、こども園での自然保育活動への見守りの継続実施と共に幼稚園の園外活動の見守りも開始した。

#### (3) 「多賀町中学生土曜講座（サタスタ）」の実施

多賀中学校の生徒を対象に、土曜日の午前中、提携塾から派遣された講師による3教科の講座（土曜講座）を実施した。



【ササ舟を作ってプレゼント】

### ■本年度の成果

- (1) こども園での自然保育時の安全見守りは2年目で、地域の方とのふれあいが積極的に行われ、園児たちの楽しみの一つである。また、幼稚園では、新こども園の建設に伴い、近隣施設での活動が増え、通年で道路の見守りを行った。ボール遊び等にも加わり、園児も楽しい時間を過ごしている。
- (2) 4年生の福祉学習では、ユニバーサルデザイン等について教えていただいた。点字や白杖、盲導犬、手話など、会話・歌も交えた内容で児童が身近に触れることができた。
- (3) 土曜講座では、中学生の学力向上を図ることができた。また、「地域活性化・人口増加と定着化」という本町の課題に応じた施策として、町行政全体の共通認識の上に立った取組となっている。

### ■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

毎年活動を楽しみにして下さる方以外にも広く活動を知っていただくために、広報等を活用したり、FAXや有線放送、FM放送、口コミ等で随時ボランティア募集したりしている。

### ■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

現在のところ、委嘱していない。

### ■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

本町の学校園では、現在学校運営協議会を設置していない。多賀町に相応しい学校運営協議会の導入に向け、CSアドバイザーの指導による研修を重ね、今後の方向性を探っている。

### ■コロナ禍における対応・工夫および課題

土曜講座を換気のできる多賀中学校に変更した。また、少人数の活動、屋外の活動を中心に行った。